

平成30年度第2回道の駅あらお（仮称）基本構想策定委員会 議事録要旨

日時：平成31年1月28日（月） 午後13時30分～午後15時30分
場所：荒尾市役所 11号会議室
議題：1. 荒尾市における道の駅について
2. 南新地土地区画整理事業の概要について
3. 委員会及び事業概要について
4. 先進事例紹介等について
出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳氏（JTBヘルスツーリズム研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所副会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合荒尾支所担当理事）、小川孝志氏（荒尾飲食店組合組合長）、古城義郎氏（荒尾市農業委員会会長）、鶴川初美氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会員※代理出席）、畑添美香氏（消費者代表）、大滝裕之氏（独立行政法人都市再生機構九州支社荒尾都市再生事務所長※代理出席）、宮崎隆生氏（荒尾市建設経済部長）
事務局：米田農林水産課長、田中産業振興課長、末永都市計画課長、田川政策企画課長、硯川農林水産課主幹、藤井農政係長、松本農林水産課副主任、株式会社マインドシェア

1.開会

米田農林水産課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2.欠席委員及び代理出席者の紹介

米田農林水産課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

3.委員長あいさつ

本日より、皆様のご意見伺いながら、コンセプト設定に向けた重要な会議に入る。是非活発な意見をお願いしたい。「荒尾らしさ」ということで皆様にご意見を伺うことになる。

4.議事

(1) 委員会スケジュールの見直しについて

事務局が、資料1に基づき本委員会の回数や日程について説明した。

(主な意見)

○第3回目委員会を3月下旬予定でされており統一地方選の真ただ中である。もう少し延期できないか。

【事務局】

⇒3月末に絶対に開催しなければいけないということではない。基本構想策定、答申までの日程を想定し、逆算して3月末を予定させていただいている。副委員長のご意見を踏まえて、3回以降の日程については改めて検討する。

(2) 道の駅あらお(仮称)整備の方向性の明確化について

事務局が、資料2 P1~P17に基づき道の駅あらお(仮称)整備の方向性の明確化について説明した。

(主な意見)

○競合する施設が多いということがわかった。道の駅あらおとしてはユニークコンテンツを絡めて展開していきたい。

○道の駅であるためにはこうあるべき。という固定観念を排除して議論する必要がある。新しい街にどのような機能が必要なのか、地元の方々がどのようなことをされたいのかを議論した方がよい。

○ウェルネス拠点における構想の中では一つのターゲットとして、子供、それから子育て世代というものが大きなキーワードとして出ており、ペルソナ(イメージする像)を持って議論すると広がりが出てくる。

○資料における近隣道の駅のポジショニングマップで競合の状況は理解できた。この資料を見る限り、地元利用型の傾向がホワイトスペースになっている。道の駅の期待というものが、地域内外からの集客・消費を図るという話であったと思うが、このポジショニングを見る限り地元利用型の道の駅というものが少ないためすごくチャンスがあると読めたが、事務局としての見解はどうか。

【事務局】

⇒観光利用型に密集してプロットされた施設については、元々地元利用型を見越して整備された施設であっても結局は商品構成や取り組み等で観光客に比重が偏っていくのは、やはり道の駅全体の傾向としてあると考えている。

地元の方がどこで買い物をしているのかと言えば、「直売所」であり、プロット位置が観光利用型として右に寄っているものについても、地元客の利用も非常に多い。右側にプロットされているから、観光客がたくさん来ているという内容ではない。観光客しか来ていないだろうという視

点でプロットされたものであるため、道の駅として地元向けにという議論については、別軸で議論すべきと考えている。道の駅が地元向けになっていないのではなく、地元客というものはこのプロットに表れていない「直売所」に大きく偏っているという現状があるということをご理解いただきたい。

○グリーンランドに遊びに来た客がトイレ休憩というには近すぎる場所に立ち寄って帰ることはない。グリーンランド来訪客をアテにするのは考え方として間違っているのではないか。

【事務局】

⇒グリーンランド来訪者に対するアンケート結果として、グリーンランド来訪のついでに道の駅を必ず利用すると19%の方が回答している。言い方を変えると、この19%の方はどこかしらの道の駅に寄って帰っている。要は、荒尾市に道の駅がないため、他のエリアに立ち寄ってわざわざお金を落としている19%の方々は、荒尾市にとってチャンスロスであることをご認識いただければ幸いである。

○沿岸道路利用者に立ち寄っていただくことで、平日の利用も増加し交流人口の拡大に繋がる。土日は観光客や家族連れで賑わい、平日はビジネスの方々が利用する施設としたい。

○インパクトのある名称を付け、また、今流行のインスタ映えなどのロケーションを工夫する。

○ウェルネスというキーワードもあるように、健康を切り口に考えたい。

○方向性については、市外という商業的などところだけフォーカスされているため、やはり軸としては市民がいかに幸せになるかという部分がベースにあるべきで、商売で新たな産業を作るといふところと合わせて、市民の生活に資するというような文言があった方がよい。

○道の駅が開設するまでに沿岸道路が開通する見込みはあるのか。道の駅が整備されても沿岸道路が開通していない状況であれば話にならないのでは。

○南新地という非常に特徴的な立地であり、既に形成されている市街地の中、あるいは、すぐそばに市街地があるということで、すぐ近くに市民の方々が住んでおられ、その方々にも楽しんでもらえる。または、平日に少しでも立ち寄ってもらえるような整備がまちづくりとして必要なことであると考えている。

○新しいまちづくりをしている中に整備される道の駅というものは、あまりないのではないか。これは正に立地がユニークであると考えており、活かしていかなければいけない。周りの公園や

緑地については既に計画をしており、それ以外のウェルネスとは何か等について現在検討を進めている。道の駅として、任せられるものは任せることとし、必要なものを議論して決めていけばよい。

○きれいな夕陽を眺められる道の駅はおそらくここにしかないのではないか。これを活かさない手はない。

(3) 道の駅あらお（仮称）コンセプトの検討について

事務局が、資料2 P18～P27 に基づき道の駅あらお（仮称）整備の方向性の明確化について説明した。

(主な意見)

○すごく夕陽がきれいな街であると感じている。東京出身であるが、こんなに素敵な夕陽は初めて見た。駅に降り立った瞬間に写真に収めてSNSで発信したことを思い出した。これをどううまく使っていくのか、正に立地を活かした見せ方となる。

○事務局に確認したいが、24 ページにポジショニングマップが掲載され、非常に重要な内容かと思うが、現段階におけるポジショニングのイメージを事務局としては持っているのか。

【事務局】

⇒どちらかと言えば、新しい要素を取り入れて行きたいため、先進的なもの、また、ウェルネス拠点ということで健康がキーワードになっているためリラクスの要素を取り入れることも重要であると考えている。

ポジショニングを見ると、先進的でリラクスの傾向というものは、空白部分が非常に多くあるため、他の道の駅との差別化の観点からも検討したい。

○水陸両用車等を用いて、道の駅から海に出てクルージング的なものを土・日・祝日に実施、また、平日は予約や貸切などでディナークルーズなど、道の駅には無い機能としておもしろい試みであると考えている。

○荒尾と言えば炭鉱の町としての印象が一番にある。

○マジックを活かしてもらいたい。マジックというマスコットキャラクターもあるため、もう少しマジック関係に力を入れて売り込みたいという気持ちがある。

○有明海の夕陽も綺麗だが、朝日もものすごく綺麗である。

○フィッシングパークのようなものができたらよいと考えている。子供・家族連れでも楽しめる。

○以前、競馬場が盛んだった頃は海が見える競馬場としてPRしていた。やはり夕陽がキーワードになるのではないか。

○荒尾と言えば、九州の真ん中であると考えている。JRがあり、高速南関ICも近くなり、また、沿岸道路も延伸するため利便性の面ではすごく良い場所であると思う。

○リラックス、リフレッシュ、一度立ち寄ったら戻ってもらえる場所という意味におけるリターンと、3つのRがキーワードとして考えられる。

○芝生のある公園について、小さい子供を持つ親は金魚の里公園に行っても、諏訪公園に行っても、荒尾の運動公園には行かない。小さい子供たちが遊べる公園があるとよい。

○荒尾の「食」という観点では、玉名のラーメンよりは荒尾のラーメンの方を好んでいる。シャララという喫茶店があるが、99種類以上のパフェがあり福岡・熊本方面から各種取材も非常に多い。

○独自の「食」の見せ方というものが大事ではないかと感じている。新しい道の駅においては、荒尾の特産品を使って、「食」を印象付けたい。

○道の駅であるため食べることは大事であると思う。グリーンランドなどから少し足を延ばして来ていただいて一休みしたいと思われる施設整備が重要。

○荒尾市は、大牟田市等と比べ図書館が非常に貧弱であるという印象があるため、検討してはどうか。

○夕陽がとても綺麗。この眺めはどこでも見られるものではないと感じている。

○海の水が体に良いとの話であるため、温浴泉施設として浸かりながら夕陽を眺めることができれば最高に気持ちが良いし癒し効果もあるのではないか。

○グリーンランドで丸一日遊んだ方も宿泊施設があれば、翌日に荒尾を散策できる

機会が増えるのではないか。

○干潟のようなフラットな場所で沈む夕陽は関東・東北では見ることができない。

○子供連れの親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんなど、家族と一緒に来て一日自由に遊べるスペースが欲しい。天候に左右されず、比較的楽しめる子育ての空間があるとよい。

○道の駅・他の施設に表すと点では全てを補うことができるかもしれないが、これを如何に線で結んでいくかが大事である。その中で道の駅がどのような点を持つべきかという議論が重要である。

○荒尾らしさについては、世界基準の万田坑・荒尾干潟の2つである。この2つを知っていただくことが荒尾らしさに繋がるのではないか。

○南新地開発の住宅ゾーンにおいては、広い地域で開発がなされる。建設については、これから造られる住宅地域であるため、未来型の住宅地域を創造していただきたい。

○道の駅では、リラクゼーションや綺麗な夕陽を眺めるための施設が必要である。海達公子の詩碑でも立てて、そこでゆっくり夕陽を眺めていただくのもよいのではないか。

○内外で荒尾を見る目は異なるかと思うが、昔は石炭のまちとして栄えた。労働者のまち、農村地域、漁村地域として繁栄してきたまちであり、そこにグリーンランドなど荒尾への来訪者が観光できる施設も増えたため、道の駅については、様々な情報発信ができるような場所にしたい。

○色々な資源やコンテンツが出てきたが、それだけでは限界があると考えている。地域資源は素晴らしいものはあるが、そこにもう一つストーリーを付加することで新しいコンセプトや産業が生まれる可能性があると考えている。

○海が近いため、避難所的な役割は重要になる。荒尾市の拠点～拠点には避難所になるべき施設が必要であると考えている。南新地地区に住宅街ができた際に避難する場所がないという状況であれば安心して住める街にはならない。道の駅設置の目的として防災に言及しているため、もちろん考えてはいるかと思う

が、耐震構造とし避難所になりうる道の駅にしていきたい。

○リピーターを確保することが非常に重要であると考えており、夕陽を見るというコンセプトであれば、四季折々の美しさというものがあり、それがリピーターに繋がる。また、今日の夕陽と明日の夕陽でもやはり違うため、違う風景を違う人と見たいと思える場所があるというのは、かなりの強みであると感じている。

○海水を入れたプールはあまり見たことがないため、そのようなものもおもしろいのではないか。

○堤防に転落防止の柵を設置し、潮が満ちた時は魚釣りができるような取り組みはどうか。遊歩道を歩いて堤防から魚釣りできればおもしろい。

7.その他

米田農林水産課長が、次回の委員会開催について、本委員会の意見を踏まえ、改めて調整することを報告した。

8.閉会

米田農林水産課長が、閉会を宣言した。